



こいでじょうあと
小出城跡

～織田(佐々)方と上杉方が戦火を交えた前線基地の発掘調査～

城跡は、富山市街地の北東へ約5kmの水橋小出地内に所在します。遺跡の西側には白岩川が南側には小出川が北側には新橋川が流れ、3方向を川に囲まれた微高地に立地します。標高は約3mを測ります。

小出城は、戦国～安土桃山時代に営まれた城館跡です。天文14(1545)年、唐人兵庫が最初にこの城に拠ったとされ、天正9(1581)年の「小出城の戦い」では、織田信長方の佐々成政勢と越後の上杉景勝勢が戦火を交えました。織田・上杉両勢力の境界線上に位置していた城で、前線基地としていずれの勢力からも重要視されていた平城です。城は現在の小出神社周辺にあったと伝えられていますが、その付近は水田・宅地化され、具体的な位置や規模などはこれまで明らかになっていませんでした。



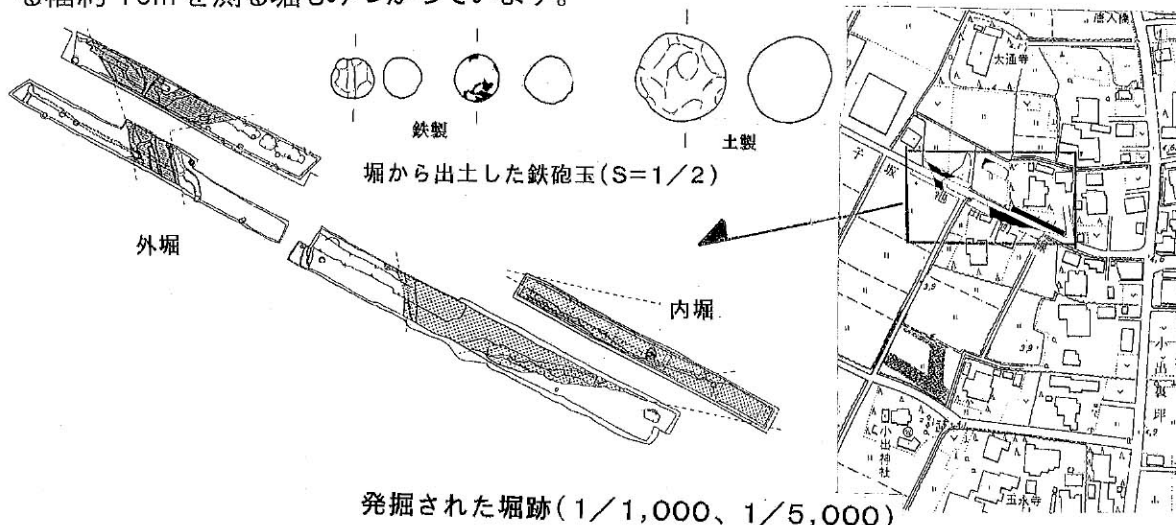
大規模な堀跡を確認

小出神社の北約150mの県道拡幅に伴う発掘調査では堀や溝跡7条・井戸14基・土坑7基がみつき、遺構からは多数の陶磁器や漆器などの木製品が出土しました。

堀は二重にめぐっていることが推測され、内堀は東西方向に延び(延長約33m)、西端が北側へ延びることが確認されました。内堀は一度埋められ、さらに掘り直されていることが明らかになりました。古段階の内堀は最大幅13m・深さ1～2mを測ります。新段階の内堀は幅約6～8.5m・最大深0.7mを測ります。外堀は内堀から西へ36m離れた位置にみつけられました。南北方向に延びる堀が途中で丁字状に分かれ、幅約6m・深さ0.4～0.8mを測ります。内堀と外堀の間には郭が形成されていたものとみられます。

堀の周辺から発掘された井戸には円形を呈する素掘りのものが9基あり、ほかに方形の枠をもつものや円形の曲げ物を井戸底に据えるもの、細い竹を壁に貼り付けるものなどがあります。

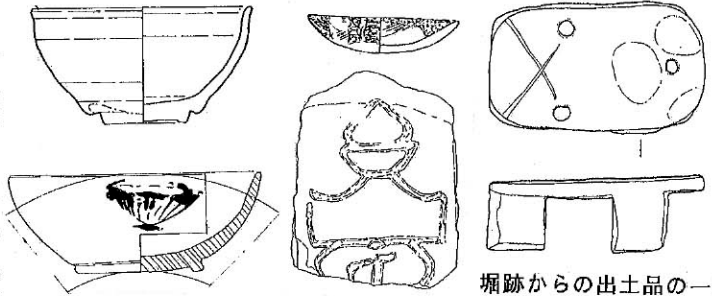
一方、小出神社の北に隣接する水田の試掘調査では、東西方向や南北方向に延びる幅約10mを測る堀もみつかっています。



発掘された堀跡(1/1,000、1/5,000)

出土品が物語る当時の暮らし

発掘された堀や井戸などからは多数の出土品がみついています。注目されるのは、鉄砲玉や土玉・長刀の柄・腰刀・焼けた石や陶磁器類などで、鉄砲玉や土玉などは火縄銃を使用した戦乱があったことを物語りません。あわせて大型の馬歯や骨が出土し、戦に関わった軍馬がいたことも推測されます。

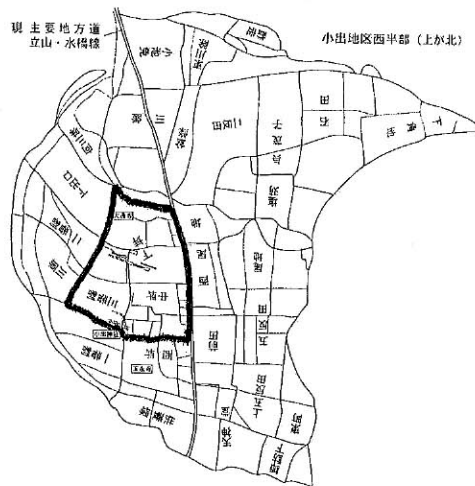


堀跡からの出土品の一部

さらに、戦乱に関係する以外にも様々な扇や植物などの文様を施した漆器をはじめ機織の部材や櫛、大人や子供の下駄、魚捕り用のタモ網、魚骨、種子、五輪塔、板碑、鉄製鋤先など日常生活に関する資料も数多く出土しました。こうした出土品からは小出城が軍事の拠点としてだけでなく、人々の生活の空間としての役割を担っていたことが分かります。

「推定 小出城域」について

これらの遺構や遺物の出土の状況、周辺の地形・旧地割などから、小出神社北側の南北約270m・東西約150mの範囲を「推定 小出城域」としました。河川で囲われた微高地全体がある時期には城の最大域ともなり、相手方からの防御の役割を担っていたことも推測されます。また、高岡徹氏は文献から城下町の存在を指摘し、町が城の外郭的な性格を持って総構えのような形で固く守られていたのではないかとみています。



一方、水橋小出地内には、鎌倉時代末～元亀2(1571)年まで、越中の禅宗寺院としては最も早く成立した瑞井山金剛護国禅寺(金剛寺)があったと伝わっています。国衙領小井出保に拠った豪族小井出氏が鉄庵道生を招いて開山したとされてます。小出城がこの地に営まれた背景には、現在の大通寺付近にあったとされる金剛寺の存在も見逃すことができません。発掘調査では15世紀代以前の遺物も出土しており、「推定 小出城域」内は金剛寺の所在も含めて今後、注目していく必要があります。

「小出城」その後

発掘調査でみつかった遺構の時期はI期(16世紀前半)、II期(16世紀後半)、III期(17世紀以降)の3時期があり、その中心は小出城が営まれていたII期にあります。

二重の堀を形成する内堀の新段階のものは17世紀～18世紀にかけて埋没したとみられます。また、外堀が埋まったあとには近世の屋敷地を区画する溝も形成されました。

一方、調査区内からは安政大地震(1858年)によるものとみられる地層のズレや歪みの痕跡が数か所で確認されました。

しかし、水橋小出の集落は戦国期の戦乱にみまわれ、地震の災害にあっても人々はこの地を離れることなく、現在まで営まれ続けています。3方向を川で囲まれたその立地環境が生活の拠点のみならず水運や交通、軍事の拠点としても見過ごすことのできない要衝の地であったことが背景にあるのではないのでしょうか。

参考文献 富山市教育委員会 2007『富山市小出城跡発掘調査報告書』

高岡徹 2007「小出城とその攻防戦の実態」『富山市考古資料館紀要』第26号